

VII 次年度に向けて

平成 29 年度は大学全体の教育カリキュラム改革の初年度であり、「地域志向教育プログラム」は全学教育機構のもと他の基盤科目等と一体的に推進されてきた。クォーター制の導入に伴い、「茨城学」は 2 単位でセメスターとして行われるが、第 2・第 3 クォーターに配置され、夏休みをまたいで実施した。また、「茨城学」を、COC プラスの協力校のうち常磐大学・茨城キリスト教大学・県立医療大学で、VCS でのライブや DVD での録画を使って共有を後期から開始した。30 年度も引き続きこれらを拡充していきながら、31 年度以降に向けて協力校とのより双方向的な授業運営を検討していく。こうした大学間にまたがる教育面での具体的な連携は、COC プラスの大学間での地域活動や、茨城大学が主催し県内の 13 大学・高専等が参加する「コンソーシアム」での活動をさらに促すだろう。

5 学部混合地域 PBL は英語で留学生と日本人学生が水戸市を中心とした地域の情報発信を行う IV が新設され、グローバルな取組が強化される。31 年度から実施される、3 年次の第 3 クォーターにインターンシップや海外留学を奨励する iOP (internship off campus program) の礎とし機能していくだろう。

COC 事業は 30 年度までが事業期間であり、30 年度の事業を実施しながら、その活動を関連するそれぞれの部署に移行する準備を行う。教育志向教育プログラム支援プロジェクト、および研究や社会貢献のプロジェクト等について、事業期間後を見据えて、その内容改変したうえで全学教育機構と社会連携センターへ移行する準備を進めていく。

30 年度は COC の各事業を拡充していく一方で、事業を移行していく重要な年度となる。こうした活動が地域・大学の教職員にとってさらに有意義なものになるよう進めていきたい。